

今月のトピックス

P1 水害ボランティア参加

P2 さる小合宿

2015年9月20日発行 発行：遊遊館便り編集部
住所 〒197-0011 福生市福生2351-1
電話 042-553-2575 編集責任者 小川瑛/田村勇典
URL <http://www.npo-ysc.jp/>

遊遊館便り

9月号

No. 196

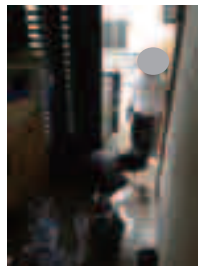
台風18号による鬼怒川氾濫 被災地支援 水害ボランティア参加

9月10(木)前後に台風の影響で記録的な大雨による水害を受けた方々の支援の為、栃木県小山市にボランティアへ行ってきました。危険地域へのボランティア受け入れは制限されており、今回のボランティアでは比較的被害の少ない地域での活動が、道路脇には大量にゴミや瓦礫が積み上げられており、当時に確実に被害が及んでいたのが見受けられます。2件のお宅を担当しました。1件目は、おぼあちゃんに住む1戸建てで、1Fの居間、台所、和室の床や窓周辺の掃除、庭の整理を行いました。初め、寮生はどのくらいまできれいにすればいいか戸惑っていたり、おぼあちゃんも指示を出し慣れていない様子でしたが、次第に連携がとれ、スムーズに作業が進んでいきました。途中の休憩時は、お茶やお菓子を差し出してください、談笑しながら終了和やかな雰囲気でした。2件目は、屋敷の敷地内の蔵の中にある浸水してしまつた物を外に運び出す作業でした。浸水したせいでストーブの灯油が拡散したのか蔵内はすごい臭気でした。細々したものから書棚やタンスなど重量物までかなりの量が、大変でしたが寮生は運ぶ方を工夫したりして着実に作業を進めていきました。同じ敷地内に千葉から来た大学生たちも

いて、作業を手伝ったりしました。2件とも、おぼあちゃんから「本当に助かった、ありがとう。」と言葉をいただき、ボランティアの一番の目的は、果たしたのではないかと思います。また、参加した寮生もなかなか経験できないボランティアを通して、何か思うこと・感じることはあると思います。それが今後の活動に何らかの影響を与えてくれれば、いいなと思います(彼らには、後日レポートを書いてもらいます)。理事長のおっしゃっていたように、被害を受けた方々の生活はすぐに元に戻るものではないので(戻らないかもしれない)、今回のボランティア活動参加はあくまで通過点と捉え、長い目で見た支援が必要だと思えます。次回参加するときは、今回の経験、反省を活かし、より質の高いサポートが出来ればと思います。

〈寮生の感想〉一部抜粋

●改めて自然の力の大きさを実感した。
●なんだか言葉に言い表せない独特の空気感で、ピリツとした感じと重い空気が入り混じった様なそんな感じでした。
●「今日はぐっすりねれそうだわあ〜」とも言ってくれて少しは安心できる環境に戻せたのかなと思いました。
●ボランティアは一日だけにもかかわらず貴重な体験ができて良かったですが、もっと他の所にも行ってお手伝いしたいです。



～写真で振り返るさる小合宿2015～

出発



これから行ってきます!

サービスエリアでアイス



プール



浮き輪でフカフカ



BBQ



プールに投げ込まれるN君

女子会?

??

キャンプファイヤー

バンジージャンプ



ロープを腰に...



まだ余裕の表情...




放心状態...

編集後記

歩いているとキンモクセイのいい匂いがしますね〜♪
昔は夏が大好きだったんですが、最近は断然、秋派です(^ ^)
好みは年とともに変わるんですかね?
みなさんは、いつの季節が好きですか?(staff 田村)

来月の予定
文化祭



泊まれる学校 さる小 合宿

～もう一度来た夏休み～

8月19～20日は群馬県みなかみの猿ヶ京にある“泊まれる学校 さる小”に1泊2日で合宿に行ってきました！さる小とは2008年に廃校になった小学校の校舎を再利用した宿泊施設で、木造の校舎には校庭や教室、プールや音楽室などといった小学校ならではの設備も廃校前のまま残っており自由に使用できます。そんなワクワクするような学校校舎をYSC貸切りで満喫できるのが今回のイベント「さる小合宿」！この日は、いつもより早い朝7時半集合(通常は8時半)。各自、お昼に自分で食べるおにぎりを作り、いざ出発。4台に分かれ、さあ目的地までGO!途中休憩場所の駒寄SAではフランクフルトをほお張り、月夜野の大型スーパーで花火やスイカの買出しを済ませ片道3時間かけ“さる小”に到着！

到着しての第一印象は・・・「うわ、学校やん!!」まあ、元学校の宿泊施設なので当たり前なのですが、木々生い茂る道を抜けるとそこにはまさに私たちが昔過ごした学校が広がっていました。木造校舎!校庭!!プール!!!もうこれは間違いなく楽しくなる予感しかしないでしょう!まずは、“腹が減っては戦はできぬ”朝作ったおにぎりでお腹ごしらえをし、プールへ。久々に見た25mプールは、小さく見えるかと思いましたが、意外にそんなことはなかったです。プールは波風立たず穏やかでしたが、それは嵐の前の静けさ。初めはみんなおもいおもいに泳いだり、ビーチボールや浮き輪で遊んだりしていましたが、そのうち水風船を投げだし。こうなれば、スタッフも利用者も関係なし。お互いの想いを水風船に託し、ぶつけ合っていました。ハメを外しすぎて、服着たままプールに水没するハプニングも。何はともあれ久々のプール、みんな楽しそうに水と戯れていました。



そして、BBQ!!陽が沈み空が暗くなりかけた頃、「乾杯!!!」の合図で始まりました。いや～炭で焼く肉&野菜たちは、涼しい夜風、響く虫の音、みんなの笑い声、素晴らしいシチュエーションのおかげで、よりいっそう極上でした。しめに焼きそばを作ったのですが、七夕祭りに焼きそばを出店した経験が活きましたね。焼く手順から味付けまで完璧でした。食べたみんなからも「うまい!」と好評でした。

夜はどんどん深まり・・・待ってました、本日の目玉(?)イベント”キャンプファイヤー”!勢いよく燃える上がる炎は、空に吸い込まれるように高くなるのび、神々しい雰囲気でした。椅子にすわりゆっくり堪能する者、何に触発されたのか踊りはじめ”山の神”になってしまう者、ギターを奏で、BGMを添える者・・・展開はめまぐるしく、そうこうしているとどこからか「パーンッ!」と破裂音が。きたよ、花火!プールにBBQ、キャンプファイヤーだけでも夏の要素満載・・・なのに、まだ出てくるか夏コンテンツ2015☆!!みんな若いね～、おじさんは線香花火がいいよ。花火選択でも個性がでるもので、和やかに手持ち花火で楽しむものがある傍らで、アグレッシブに打ち上げ花火やロケット花火をバンバン放つ者も・・・もう・・・本当にロケット花火は怖いから勘弁してください(涙)



さて、一通りのイベントが終わり寝るまでの自由時間。夜の真っ暗な校舎での肝試しや、レクリエーションホールの卓球、ストラックアウト(野球の的あて)でも盛り上がっていました。さる小合宿まだ一日目にしてこの濃厚さ。さすがにみなさんお疲れのようで、恒例の恋バナトークタイムはいずこへやら、ほとんどは床につくなりすぐ眠りについていました。



さあ、2日目の後半戦。まずは朝ごはん作りから。寮ではキッチンスタッフがご飯を作ってくれますが、ここさる小ではすべて自分たちで行わなくてはなりません。今回はサンドウィッチをみんなで作りました。レタスのみずみずしさにはハムのしっとりした旨み、卵の弾力ある食感、それらを包むパン。This is the 絶品でした!



その後は、何しようかいろんな案がありましたが、なんとさる小の近くにバンジージャンプなるものがあることを情報隊が発見!利用者、スタッフ合わせて3人の勇士が立候補、さっそく現地へ。そこに広がっていた光景は、本当にここから飛ぶんですか?と疑いたくなります。橋の真ん中あたりに会場があり、その係員の全員テンション高そうな外国の人、陽気なBGMが流れており、一瞬その雰囲気緊張が解けそうになりますが、下をのぞくとはるか遠くに渓谷が見えます。高さ42m、10階建てビルに相当します。どう考えても、ここから飛び降りるのは正常な行為じゃないでしょう!先客の



悲鳴がリアルに恐ろしい。しかし、時は待ってくれません。3人の審判の瞬間は刻一刻と近づいています。さあ、1人目。係員に物々しい器具を取り付けられ、飛び降り台の先端に立たされた彼は、まな板の鯉状態。「3・2・1・BUNGY!!」思考の隙を与えられず落下した彼は、無音。重力のなすがままに渓谷にすい込まれていきました。飛んだ後彼は一言残した、「怖くて声がでなかった。」と。2人目 OGAWA staff。いつもは若干余裕のある表情をしている彼もこの瞬間ばかりは緊張が走ります。そして、Dive to 渓谷!!1人目の彼とは対照的に、悲鳴をあげつ

つも何か明らかに浮遊状態を楽しんでいます。なぜそんなに楽しそうなのだ!!?最後を飾る3人目は、MITSUHASHI staff。前2人を見送った後に飛ばねばならないのは、なかなかプレッシャーでしょう。180cmの巨体もこの状況下では小さく見えました。I can fly!!飛び終えた彼も言葉を残しました「いい経験になった。でももう飛びたくない(本心)。」と。



しかし、事を終えた3人の顔はとてすがすがしかったです。きっと飛んだものにしか分からない何かを感じたのでしょうか。Over the wall!!を身をもって示してくれた3人は、本物の男、もとい、漢でしょう。こうして2日間にわたるさる小合宿は、幕を閉じました。



楽しかった時間はあっという間に過ぎ、童心に返らせてくれたさる小を後にしました。あまりに密度の濃い時間だったので、帰り道の車ではうとうとしたり少し疲れた様子の利用者もいたり。利用者のみなさんもスタッフも本当にお疲れ様でした。また来年、Go back againさる小に!!

